

羅漢の世界

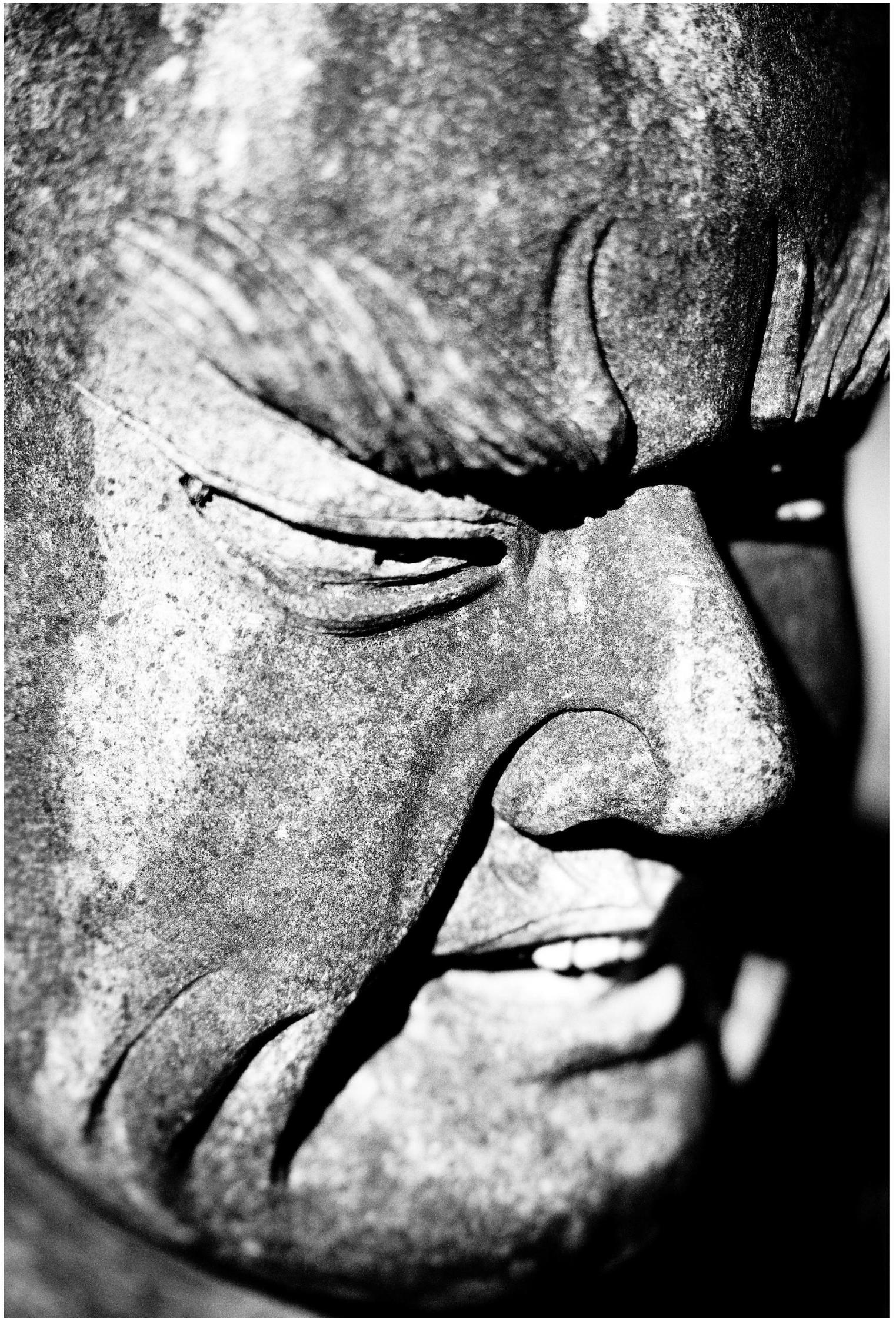
～今を生きる～

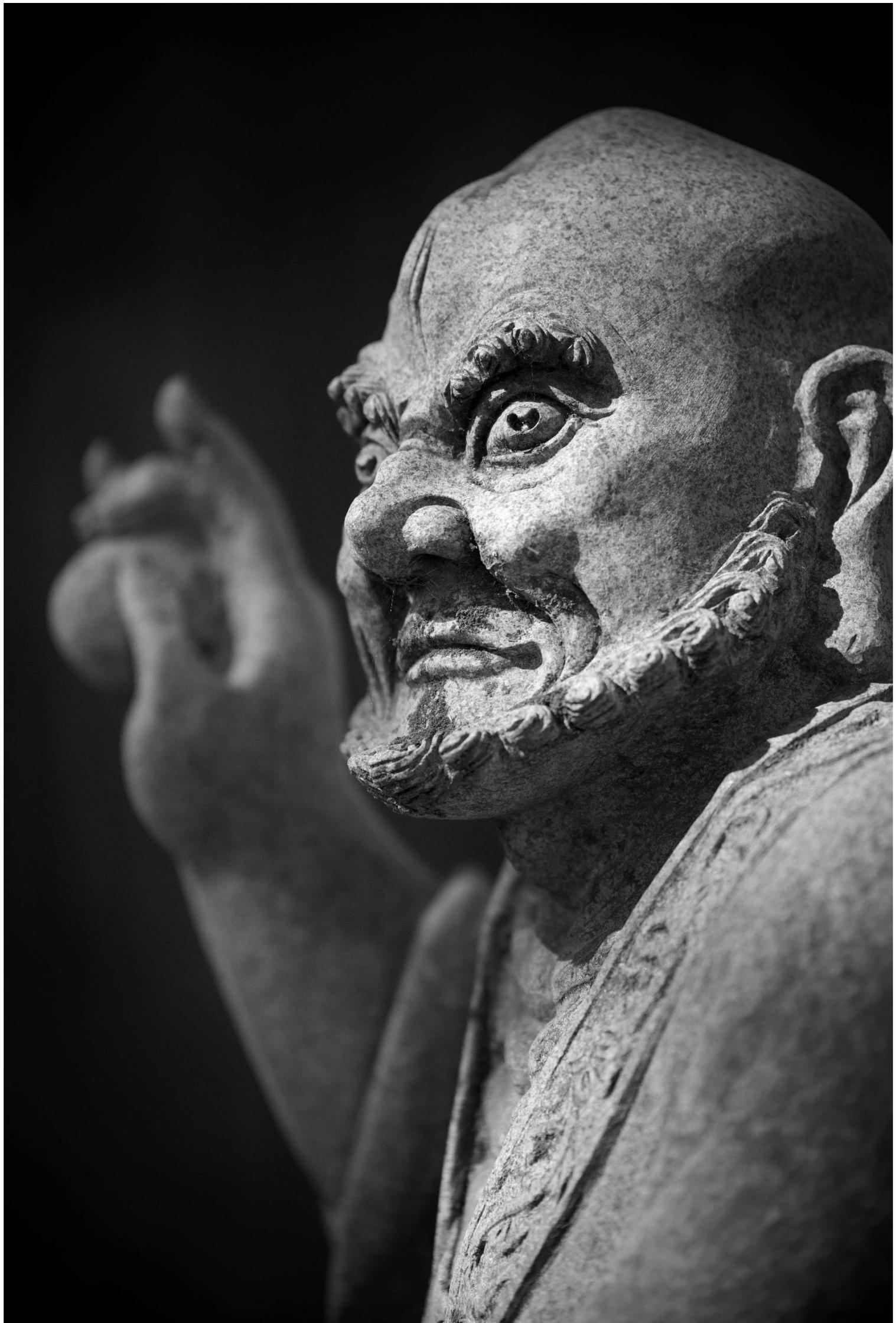


撮影 田村拓也

羅 漢 の 世 界

～今を生きる～









花が咲いている 精一杯咲いている わたしたちも 精一杯生きよう





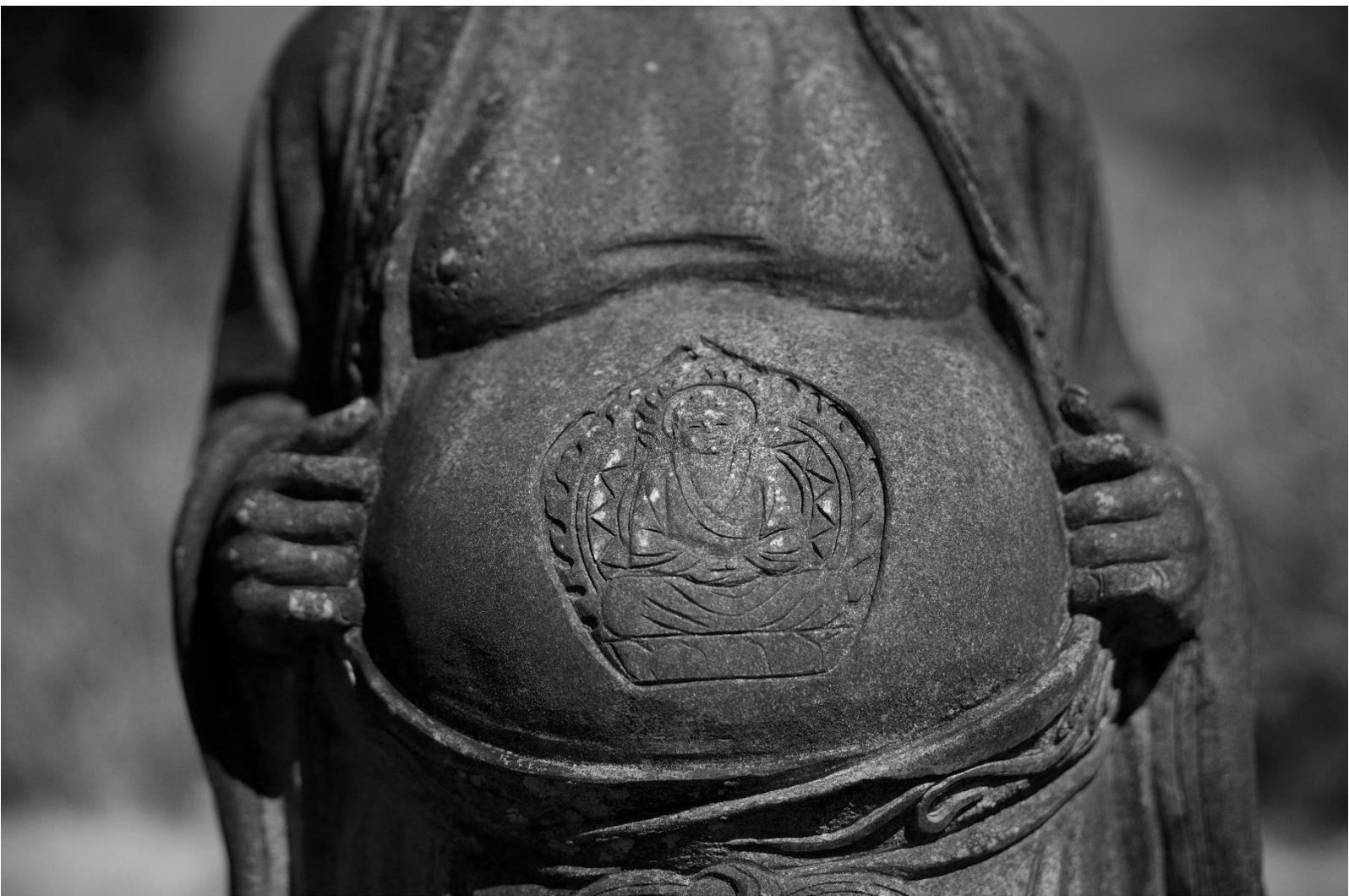
いまから数年後、あなたはしたことより、
しなかったことにもっと失望しているでしょう
今、何をやるか。これから何をやれるか。何に面白がれるか



自分だけ大事にしようとするとう怒りや悲しみがわいてくるのです

怒らないことによって怒りに打ち勝て





どうにもならなくなったときは、
自分は今、生きていること自体に価値があると信じること
自分の弱い心に勝った者が最高の勝利者なのです



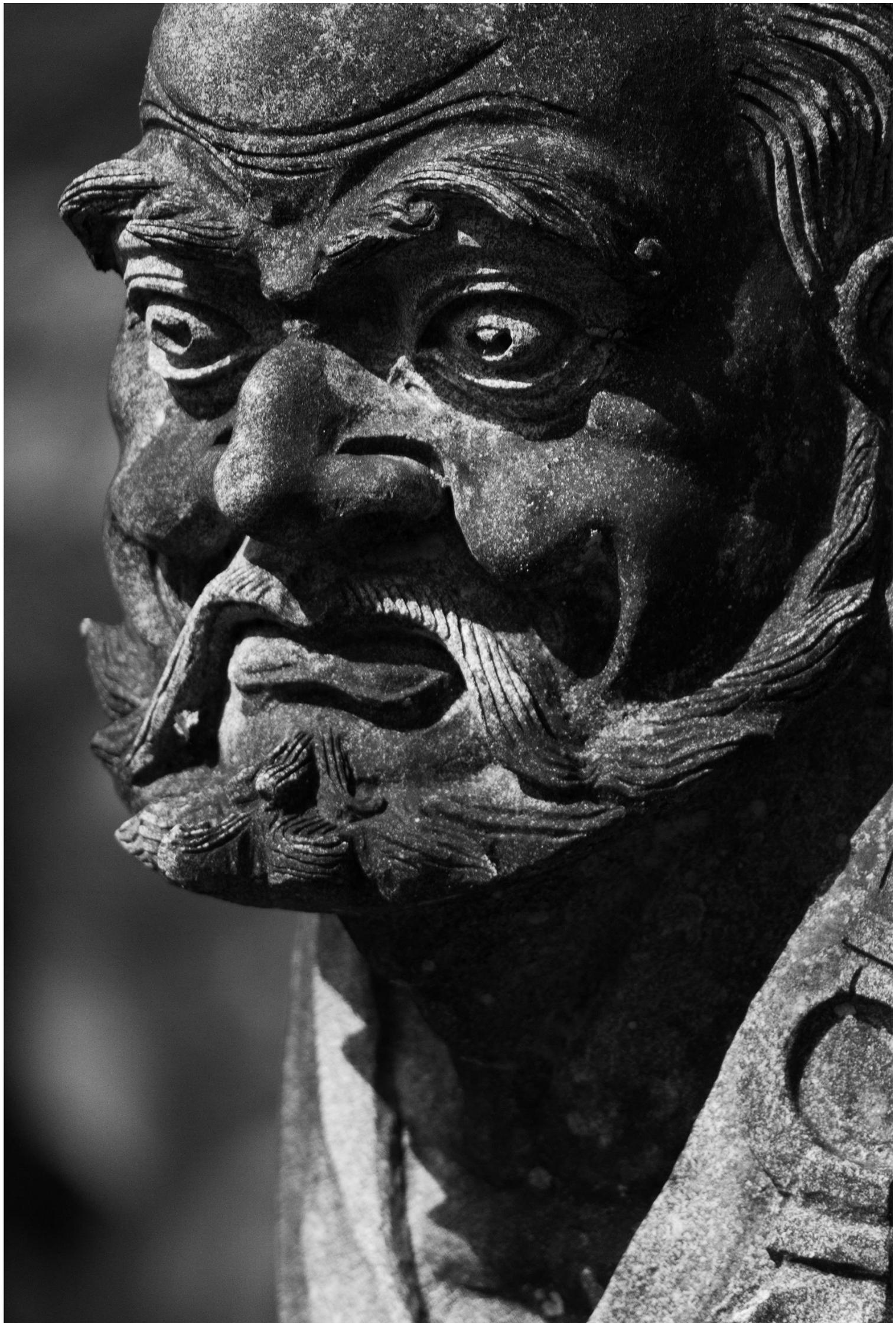






過去はここに存在しません。未来はまだ訪れてさえいません。

あなたが生きているのは今一瞬だけです。今を精一杯生きましょう



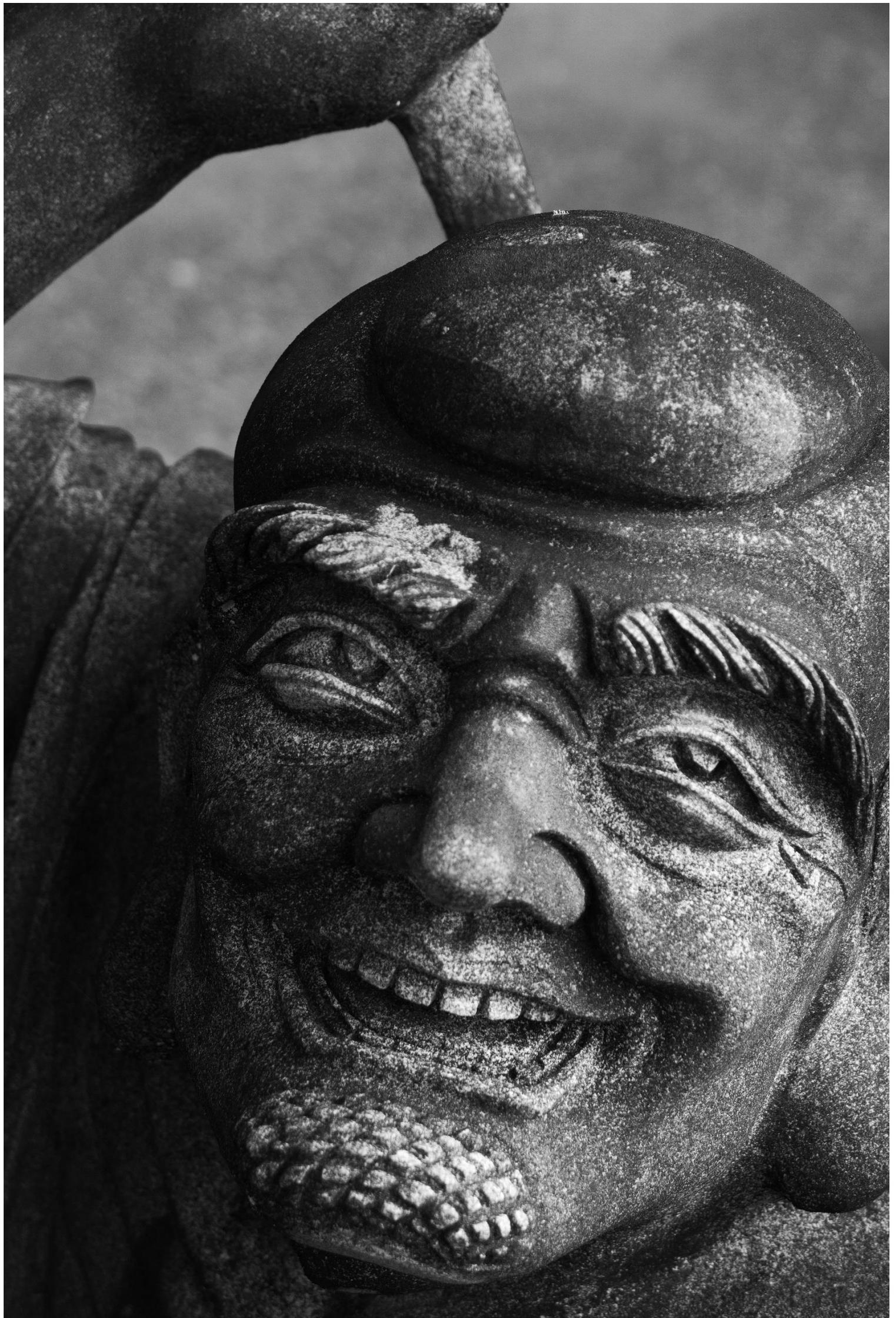


過去は追ってはならない、未来は待ってはならない。

ただ現在の一瞬だけを、強く生きねばならない



人生とは自分を見つけることではない。人生とは自分を創ることである





愚人は過去を、賢人は現在を、狂人は未来を語る

今を全力で楽しくするだけ。人生は今の連続だから



もし、清らかな心で生きている人がいたとしたら幸福はその人の後についていく



すべてのものごとは、その人の心によって成り立つ







歩いている時、食べている時、旅をする時、

今を生きなさい。でなければ、

人生の大半を無駄にすることになります

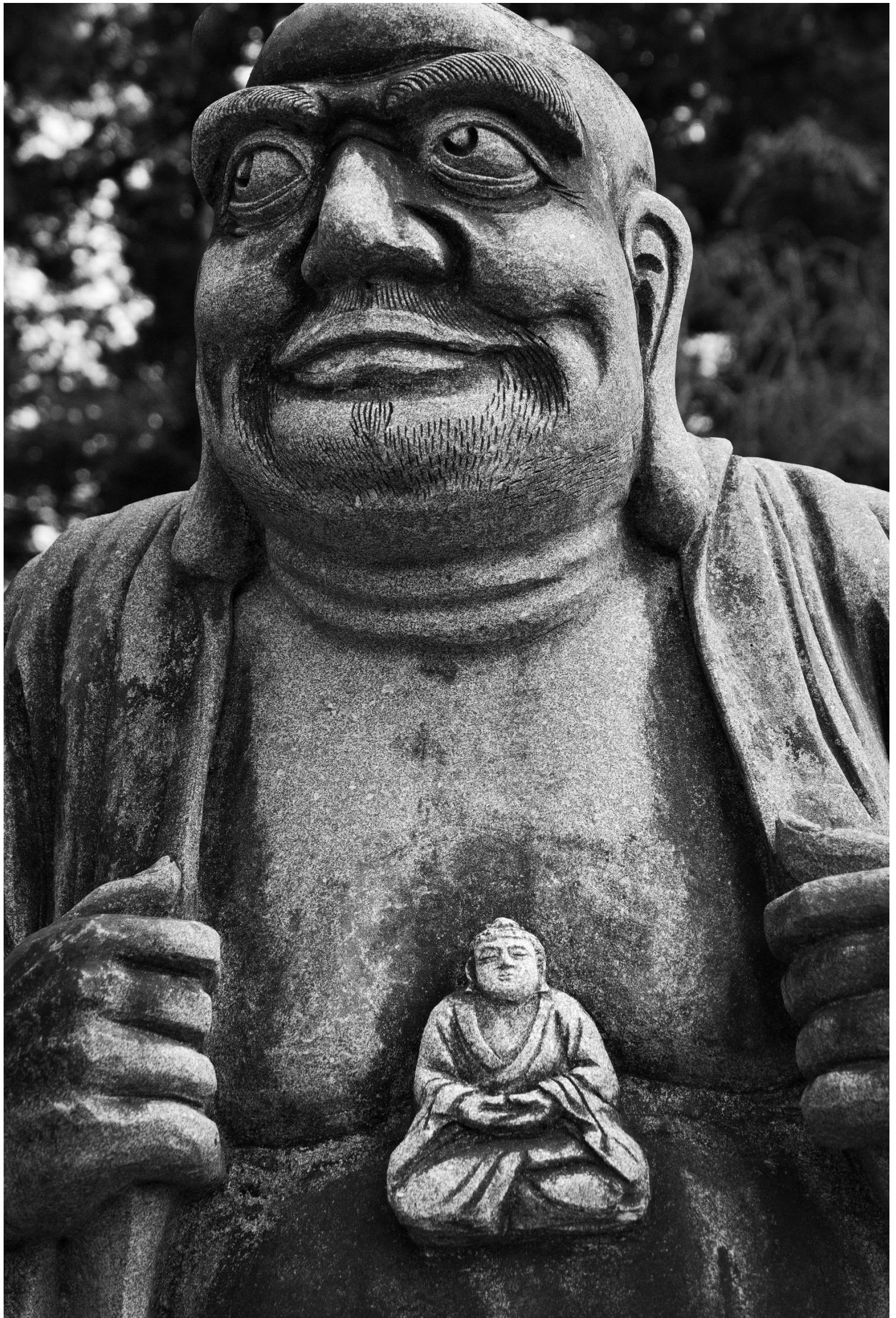


人生とは、今日一日一日のことである



諸行無常—すべてはうつり変わるもの

諸法無我—すべては繋がりの中で変化している





どんなに悔いても過去は変わらない。

どれほど心配したところで未来もどうなるものでもない。

今、現在に最善を尽くすことである



幸福というのは、いくら人へ分け与えても減らないものです







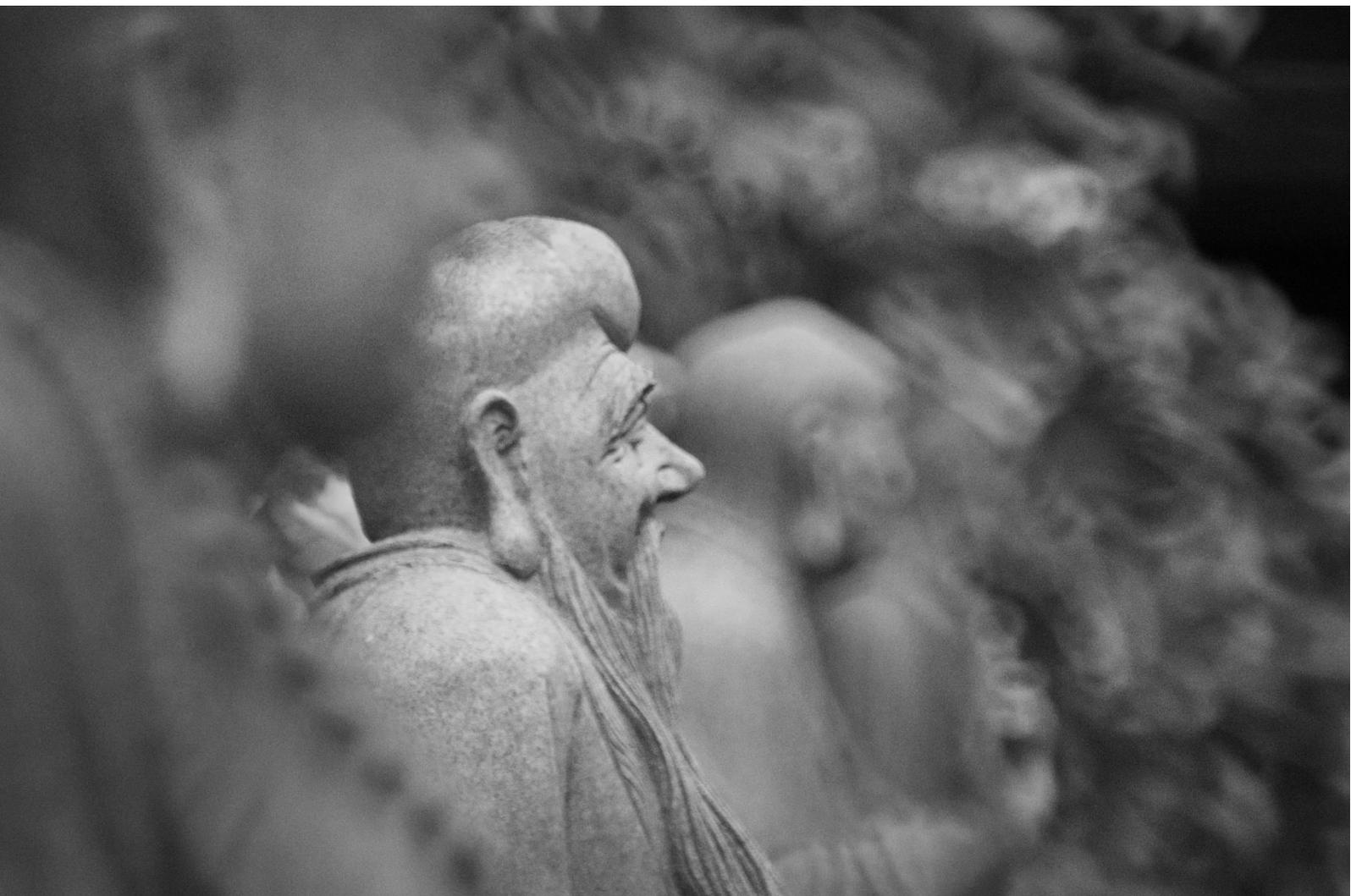
始めに自分を整えること。その後で人に教えなさい



幸せというものは、それは人によって違くと

思いますけれど、生きがいを感じる人が

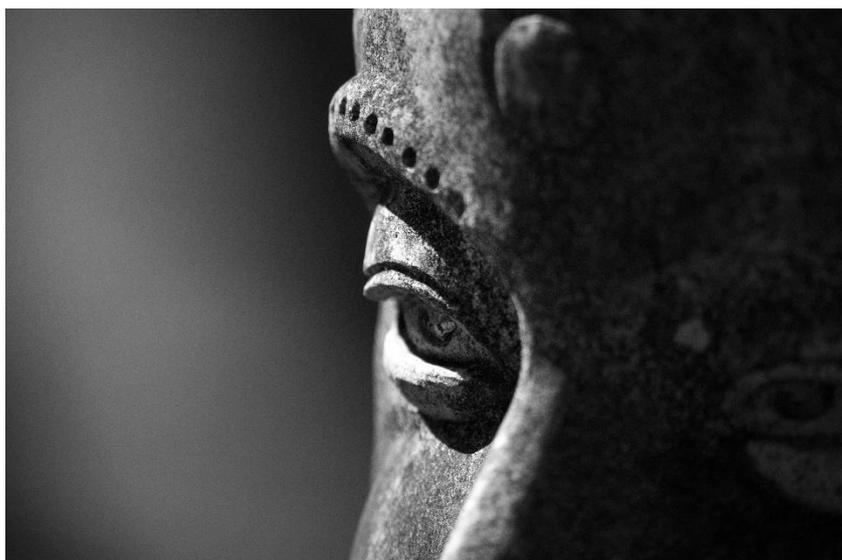
幸せではないですか



人は「私はこういう人間だ」と自分で考えるその通りのものになります



「いつの日か」は決してやってこない



羅漢の世界 ～今を生きる～

経王山光徳寺

千葉県市原市

製作:2024/06

撮影:田村拓也

写真家

産業カウンセラー

キャリアコンサルタント

日本写真家協会(JPS)

千葉市在住

ホームページ

<https://tamutaku.com>

経王山光徳寺は寛正元年(1460)、平賀本土寺

第九世妙高院日意上人によって創建されました。

爾来、550年の歴史を刻み、最盛期には末寺10ヶ寺、

七堂伽藍を有した中本寺として近隣周囲に名を

馳せました。明治期以降、廃仏毀釈、戦中戦後

の動乱、農地開放政策の影響に伴い、運営上の

危機がありましたが、昭和末期、日本経済発展に

助けられ、檀信徒の一致協力のもと再び復興の道

を歩んでおります。現在では、境内にある約1000株

の紫陽花の他、四季の花々が参詣者の心を

和ませてくれることでしょう。平成14年には立教開宗

750年を記念して、500羅漢像が建立され、

法華経壽量品、神力品の世界を顕現しました。

羅漢とは自らの悟りに至った聖者のことをいいます。

その羅漢様が再び釈尊のもとに集まり、

人々を救う為の悟りを求める、即ち、羅漢様が集う

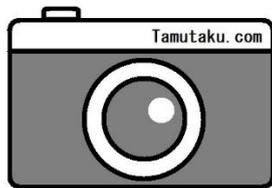
ところには大いなる悟りがあることを意味するのです。

是非、御来山の上、羅漢様に問いかけて頂ければ

幸いです。きっと冥加を賜り、日頃の悩みが

善き方向に向かうはずです。

(光徳寺 HP より)



Tamutaku.com